

平成 2 8 年度
事 業 報 告 書

自 平成 28 年 4 月 1 日

至 平成 29 年 3 月 31 日

はじめに

日頃から協会事業にご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

平成 28 年度事業についてご報告申し上げます。

当協会が公益社団法人として認定を取得して 5 年目となる平成 28 年度は、ガバナンス改革元年として、協会組織の内部統制システムを再点検し、関連規定と倫理綱領の全面改訂を行うなど、ガバナンス体制を一新した年となりました。新たに設置された経営企画会議とコンプライアンス会議も継続的に開催され内部統制は着実に強化されています。パブリックリレーションズに対する期待の高まりを背景に、協会事業の一層の質的向上に向けて努力を継続する所存です。

事業面で一年を振り返ると、教育委員会が主管する教育・研修事業、資格委員会が主管する PR プランナー資格認定事業がともに好調に推移しています。講座・セミナーへの参加者数、PR プランナー資格認定試験への受験者数がそろって増加傾向を示し、事業収支の面でも大きな貢献が見られました。

個別の事業についてご報告いたします。はじめに**公益目的事業**についてご報告いたします。

前述した**教育研修事業**は、広報・PR 実務に関する各種講座をシリーズで実施している「広報・PR アカデミー」「PR プランナー試験対応講座」が順調に回を重ね、話題のゲストスピーカーを迎えて実施する「定例研究会」（その他事業）も 8 回にわたって開催され、概ね盛況な一年となりました。

PR プランナー資格認定制度では、年 6 回実施している試験の受験者数が過去最高を記録し、認定 PR プランナー数が累計で 2,200 名を突破するなど堅調に推移しています。PR プランナーへの認知が高まり社会的責任が増大する一方で、試験制度を維持する委員会所属メンバーの負担も増しています。

三大顕彰事業である日本 PR 大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」「シチズン・オブ・ザ・イヤー」と「PR アワードグランプリ」は、協会のシンボリック事業として定着しています。とりわけ PR の最新潮流の象徴ともいえる「PR アワードグランプリ」について、審査方法や審査のプロセスを全面的に見直し、従前にも増して透明性の高い公正な方式を採用いたしました。その結果、応募作品数が前年から倍増し 100 作品を超えるなど、大いに盛り上がったグランプリとなりました。PR への期待の高まり、社会的要請を踏まえた作品が上位を占める結果となりました。

次に**収益事業**についてご報告いたします。

「**広報・マスコミハンドブック PR 手帳**」が販売好調で増刷対応した結果、3,000 部を超える発行となりました。また、**試験対応テキスト**の販売も堅調で平成 29 年度中には改定版の発行を予定しています。

その他事業についても予定通り計画が進行いたしました。

本年 2 月には 3 年ぶりとなる**海外研修事業**として、米国 NY を訪問。主要メディアや PR 会社、PR SA（米国 PR 協会）への訪問、現地関係者とのミーティング開催など充実した内容の研修が実現できました。

最後に、部会活動（**企業、PR 業、関西、PR プランナー**）もいずれも順調に推移いたしました。発足 2 年目となる PR プランナー部会は今年も活発に活動を展開、PR プランナー資格制度創設 10 周年記念事業に向けて計画検討を進めています。

当協会の設立目的でもある「パブリックリレーションズを通じた社会発展への貢献」に向けて一層の努力を傾けていく所存です。会員の皆さまのご理解とご協力を引き続き賜りますよう、心からお願い申し上げます。

I. 公益目的事業（パブリックリレーションズに関する普及啓発事業）

1. パブリックリレーションズに関する倫理綱領の確立および実践

広報・PRパーソンの教育や倫理の徹底を行い、パブリックリレーションズに関する倫理綱領の確立および実践、研修会・講演会の開催並びに人材育成などを行うことにより、パブリックリレーションズの健全な発展を図り、わが国の産業・経済・社会の発展に寄与する事業を継続して行った。

2. パブリックリレーションズに関する専門人材の養成に向けた教育研修事業

わが国におけるパブリックリレーションズ（PR）の健全な発展を図り、産業・経済・社会の発展に寄与することを目的として、経験レベル・目的に合わせた広報・PRに関する研修会・講演会およびセミナーを開催した。専門的知識を有する講師を招聘し、広報・PRの知識とスキルの体系的な習得とともに、知っておくべきその年の旬のテーマについて理解をはかるよう題材を構成した。

・広報PRアカデミー2016

広報・PRの役割がますます重要になってきており、広報・PRに関わる人材の育成は、企業・団体のみならず社会的な要請となっている。当協会の公益性を鑑み、そのような企業・団体や社会的要請に応える講座を平成28年度も開催した。以下の「広報PRアカデミー」の各々の講座は全て、会員のみなならず一般の方々をも対象とし、開催要領は協会Webサイトに掲載して、広く受講の機会を提供した。

（1）ベーシックPRコース

比較的経験の浅い広報・PRの新任者、広報・PRについて基礎から学びたい方などを主な対象とし、実務に必要な基本的な知識や実務スキルの習得を目的とするコース。

・「広報・PRスタートアップ講座」

PR会社、企業の広報・PR部門における新任者など比較的業務経験の浅い広報・PR実務者を対象とする業務研修。受講者が広報・PRに関する基本的な知識、業務に不可欠なスキルを3日間の講義と演習を通じて効果的に習得できるよう本講座を開講した。講師には、広報・PRの実務専門家、弁護士、大手企業における現職のマネージャーを迎え、日々刻々と変化する現場の実際に即し、すぐにでも現場で活用できる生きた広報・PR実務を学ぶことができるよう指導した。参加者は3日間受講51名（会員38、一般13）、1日受講1日目11名（会員6、一般5）、2日目14名（会員9、一般5）、3日目7名（会員7）。プログラムは以下のとおり。

開催日	講座テーマ	講 師
平成 28 年 4 月 13 日 (水) (1 日目)	ご挨拶／講座ガイダンス	(公社)日本パブリックリレーションズ協会
	パブリックリレーションズとは？ ～パブリックリレーションズの基本を学ぶ～	(株)電通パブリックリレーションズ エグゼクティブ・アドバイザー 花上憲司氏
	経営を支えるコーポレート・コミュニケーション ～これからの企業広報とその役割～	(株)野村総合研究所 金融IT事業 イノベーション事業本部 業務管理室長 野村武司氏

4月13日 (水) (1日目)	やさしいIR(投資家向け広報・PR活動) ～広報・PRパーソンのためのIRの基本～	埼玉学園大学 大学院 経営学研究科／経済経営学部経済経営学科 特任教授教授 米山徹幸氏
	緊急対応！ 企業を守るクライシス・コミュニケーション ～クライシス・コミュニケーションの基本と実務～	(株)エイレックス アカウント マネージャー 畑山 純氏
	法とコンプライアンスの観点から見た広報・PR ～平時・有事の広報業務で留意すべき法的ポイント～	TMI総合法律事務所 弁護士 中村勝彦氏
4月14日 (木) (2日目)	生活者を動かすマーケティングPRの進め方 ～マーケティングPRの基本と実務～	(株)インテグレート IMC2 部サブマネージャー チーフプロデューサー／プランナー 芹澤愛有子氏
	世界一魅力的な広報・PRパーソンになるには ～広報・PRパーソンはコミュニケーションのプロフェッショナル～	エートゥーゼットネットワーク 代表 石橋眞知子氏
	これだけは絶対マスター！ニュースリリースの基本と活用 ～ニュースリリースは広報・PRの必修科目～＜講義と演習＞	(株)電通パブリックリレーションズ ナレッジマネジメント部 部長 青田浩治氏
4月15日 (金) (3日目)	マスメディアを知り尽くそう！ ～テレビ・新聞・雑誌・ラジオの特性をつかむ～	(株)スペインクラブ 取締役社長 田代 順氏
	デジタル・コミュニケーションが開く広報・PR新時代 ～ソーシャルメディア、Webメディアをどう活用するか？～	(株)電通パブリックリレーションズ コミュニケーションデザイン局 シニアコンサルタント 細川一成氏
	やっぱり大事なメディアリレーションズ ～記者・編集者の考え方と付き合い方を知る～ ＜講義と編集＞	(株)ハーバーコミュニケーションズ 代表取締役 五十嵐 寛氏

・「広報・PRブラッシュアップ講座」

主に秋期から新たに着任した広報・PRの新任者が主な対象。広報・PR業務においてもっとも基本的なスキルである「メディアリレーションズ」、「PRプランニング」、「ドキュメンテーション」、「プレゼンテーション」について、講義と演習を通じて習得を図る講座を解説した。演習を重視する実践的な内容としていっそう実務に即した講座とし、テーマ別に平成28年10月の4日間、それぞれ4時間の講座として開講した。

●「ベーシック・メディアリレーションズ」

メディアと日常的に接する広報・PRパーソンがマスターしておくべきメディアリレーションズの基本を4時間の講義と演習を通じて習得した。また、ソーシャルメディアなどのネット系メディアを通じた情報拡散のプロセスについて考え、広報効果を高めるマスメディアとの効果的な連携法についても学んだ。

開催日	講座テーマ	講師
平成 28 年 10 月 5 日 (水)	「メディア対応はこれでOK！～円滑なコミュニケーションのための基本スキル」	(株)スペインクラブ 取締役社長 田代 順氏 参加者:20 名(会員 12、一般 7、PRプ ランナー(准・補)1)

●「ベーシック・PRプランニング」

現状分析から課題・目標の設定、戦略策定、そして戦略に基づく施策の立案などの一連のプロセスにより構成され課題解決につながる戦略的なPRプランニングをテーマに、その作成に求められる基本的なスキルやポイントを、実務経験の深い講師の指導により4時間の講義と演習を通じて習得した。

開催日	講座テーマ	講師
平成 28 年 10 月 12 日 (水)	「課題解決につながる戦略的プランニングの進め方～PRプラン作成の基本を学ぶ」	(株)井之上パブリックリレーションズ アカウントサービス本部 戦略企画部 部長 横田和明氏 アカウントサービス本部 AS2 部 部長 高野祐樹氏 参加者:25 名(会員 9、一般 12、PRプ ランナー(准・補)4)

●「ベーシック・ドキュメンテーション」

見やすくわかりやすいドキュメントは、コミュニケーションにおける重要ツール。高い機能を持つオフィス用ソフト「PowerPoint」を駆使したドキュメント作成法のマスターとその活用は、コミュニケーションのスペシャリストである広報・PRパーソンにとっては必須となる重要スキル。「PowerPoint」の活用ポイントに関する解説を交えた4時間の講義と演習を通して、コミュニケーション効果の高い広報・PRドキュメントの作成法を習得した。

開催日	講座テーマ	講師
平成 28 年 10 月 19 日 (水)	「“見心地”よいプレゼン資料の作り方～PowerPoint を効果的に使いこなす」	デプラス(株) 代表取締役 秋山太郎 参加者:11 名(会員 10、一般 1)

●「ベーシック・プレゼンテーション」

米国のPR業務や事情、プレゼンテーションの技法に通じたベテラン講師を迎え、わかりやすくコミュニケーション効果の高いプレゼンテーションに求められる技法、実施のポイントなどについて、4時間の講義と演習を通じて習得した。

開催日	講座テーマ	講師
平成 28 年 10 月 26 日 (水)	「わかりやすくしっかり伝わるプレゼンテーション～成功するコミュニケーション技法」	(株)グローコム 代表 岡本純子氏 参加者:14 名(会員 10、一般 2、PRプ ランナー(准・補)2)

(2) アプリケーションPRコース

広報・PR業務における新しい技法、重要だがあまり学ぶ機会のないスキルの習得をめざす講座。スキルが確実に身に付くよう、頭と手を使い、さらにロールプレイなども内容とする実習やワークショップを重視したトレーニングとして構成した。「緊急記者会見トレーニング」「広報・PR動画活用トレーニング」の2講座を実施した。平成28年7月7日と平成29年3月9日の16:00～20:00、テーマ別に4時間の講座として開講した。

・「広報・PRプラクティカル・トレーニング」

より高いレベルの知識、スキルの習得に意欲があり、広報・PRの業務経験のある実務者を対象に、講義と演習をバランスよく組み合わせた3回の実務講座を9月に開催した。

●「緊急記者会見トレーニング」

企業などにおける緊急事態発生時に際し広報・部門にとって不可欠となる危機管理について、その考え方や心構え、その対応法などの基本について、講義と緊急記者会見を模した演習を通じて習得した。

開催日	講座テーマ	講師
平成 28 年 7 月 7 日 (木)	「緊急記者会見トレーニング～緊急記者会見とクライシス・コミュニケーション」	アンダーソン・毛利・友常 法律事務所 弁護士 甲斐淑浩氏 参加者:44 名(会員 31、一般 9、PRプランナー(准・補)4)

●「広報・PR動画活用トレーニング」

コミュニケーションにおける動画の特性、その活用の意義や効果、現状などについて、最近の事例を交えて学んだ。また演習では、iPhone や iPad の利用による手軽かつ短時間で可能なビデオクリップ（ビデオリリース）の制作テクニック、ニュースメディアやソーシャルメディアによる伝播および拡散の手法など、動画コンテンツを広報・PR活動で効果的に活用するためのポイントを習得した。

開催日	講座テーマ	講師
平成 29 年 3 月 9 日 (木)	「動画の効果的な活用法と iPhone を使った制作テクニック」	ケイズ・クリエイティブ(株) デザイン コンサルタント／中小企業診断士 北村真吾氏 参加者:20 名(会員 16、PRプランナー(准・補)3、一般 1)

・「コミュニケーション・ケーススタディ」

実務家の間で重要性の高い企業広報、危機管理広報、戦略PR、広報効果測定、デジタルメディアの5つのコミュニケーション領域を対象に、事例分析やケーススタディから活動の成否につながる本質や原理を理解し、業務をより的確に遂行する実務能力を養成するため、講師には、その領域における業務遂行に精通した実務専門家を起用し、自身で手がけた事例やケーススタディに基づく貴重な知見を深めた。

●「企業広報スタディ」

企業の広報力を「情報収集力」「情報分析力」「戦略構築力」「情報創造力」「情報発信力」「関係構築力」「危機管理能力」「広報組織力」の8つの軸から分析する独自の手法「オクトパスモデル」を開発した電通パブリックリレーションズ・企業広報戦略研究所の黒田明彦氏を講師に迎え、講企業の広報力を実際に把握し、ケーススタディとして、積極的にコミュニケーション活動に取り組んでいる企業の実例を、オクトパスモデルからとらえ、その企業の経営課題と広報力の関係について考えた。自社の広報活動を客観的に分析する視点を養い、「広報力」の強化を推進するための基本的な考え方を習得した。

開催日	講座テーマ	講師
平成 28 年 11 月 16 日 (水)	『オクトパスモデル』分析に基づく企業広報力強化のポイント」	(株)電通パブリックリレーションズ 企業広報戦略研究所 主席研究員 黒田明彦氏 参加者:20名(会員14、一般2、PRプランナー(准・補)4)

●「危機管理広報スタディ」

講師に危機管理の専門家を招き、最近の事例に基づくケーススタディを学んだ。クライシス発生時における広報対応の実際やその取組みの適否、成否を分ける本質的な原因などを考察し、そこから得られる教訓の理解と習得を通じ広報・PRパーソンの危機対応力の強化をはかった。

開催日	講座テーマ	講師
平成 28 年 12 月 15 日 (木)	「クライシス事例の分析に基づく危機対応力の強化 ～危機管理広報の原則とクライシス対応の基本～」	(株)田中危機管理広報事務所 代表取締役社長 田中正博氏 参加者:30名(会員21、一般5、PRプランナー(准・補)4)

●「戦略マーケティングPRスタディ」

従来のマーケティングPRを超えて、より大きな成果を生み出す手法として関心を集める「戦略PR」について、その手法を用いた取組みや考え方、計画立案などについて、具体的なケーススタディの解説をとおしてそのポイントを習得した。

開催日	講座テーマ	講師
平成 29 年 1 月 18 日 (水)	「ケーススタディに視る『戦略PR』プランニングのポイント ～情報環境・意識・価値観の変化と『戦略PR』の新たな進化」	ブルーカレント・ジャパン(株) 代表取締役社長／CEO 本田哲也氏 参加者:37名(会員24、一般5、PRプランナー(准・補)8)

●「広報効果測定スタディ」

企業における一般的な効果測定の種類や考え方、メディア環境の変化に合わせた最新の効果測定の手法や企業における活用について学び、さらに自社の効果測定を見直すための基本的な指標に関する作成のポイントを理解し効果測定の進め方を習得した。

開催日	講座テーマ	講師
平成 29 年 2 月 16 日 (木)	「メディア環境の変化に対応した広報効果測定 の最新事例 ～デジタル時代に対応する新たな 効果測定手法～」	(株)電通パブリックリレーションズ コーポレートコミュニケーション戦略部 長 北見幸一氏 調査部長 末次祥行氏 参加者:78 名(会員 58、一般 11、PR プランナー(准・補)9)

●「デジタルメディア・スタディ」

急速に変化するメディア環境を背景として、コーポレート・コミュニケーション活動においてさまざまなデジタルメディアの活用に取り組む企業の実例をケーススタディとして学び、課題解決から成功を導くポイントまで、企画、構築、運用などの点まで掘り下げることを通じて実践的なヒントを習得した。

開催日	講座テーマ	講師
平成 29 年 3 月 16 日 (水)	「ソーシャルメディア時代のコーポレート・コミュニケーション戦略 ～組織コミュニケーションとデジタルメディアの効果的活用」	クロスメディア・コミュニケーション(株) 代表取締役社長 雨宮和弘氏 参加者:25 名(会員 19、一般 3、PR プランナー(准・補)3)

・「広報・PRプロジェクト顕彰事例セミナー2017

～「2016 年度PRアワードグランプリ」からわが国PRの潮流を展望する～」

平成 28 年 12 月 7 日に実施された「2016 年度PRアワードグランプリ」において、最も優れたプロジェクトとして選出された「グランプリ」1 作品と、「ゴールド」の 4 作品、合計 5 作品について紹介し、講演では、プロジェクトの企画や施策の遂行において工夫したポイント、達成した成果などを受賞関係者から解説いただいた。

参加者：103 名（会員 56、一般 25、PRプランナー（准・補）40）。

プログラムは以下のとおり。

平成 29 年 3 月 1 日 (水)	開会 「2016 年度PRアワードグランプリ」で目指したこと	2016 年度「PRアワードグランプリ」 審査委員長 嶋 浩一郎氏
	●ゴールド受賞作品 「PRのチカラでウナギの絶滅を防げ！「近大発ナマズ」の研究・広報一体化コミュニケーション戦略」	学校法人 近畿大学
	●ゴールド受賞作品 「カルビーフルグラ 2011 年から 2015 年度までの 5 年間で売上 37 億→223 億まで成長させた朝食革命」	(株)エムスリー・カンパニー (株)博報堂ケトル
	●ゴールド受賞作品 「森永製菓「フレフレ、部活。母校にinゼリー」	(株)電通
	●ゴールド受賞作品 「LOVE THERMO #愛してるで暖めよう」	(株)電通パブリックリレーションズ
	●グランプリ 「スマートフォンでの領収書電子化と原本の長期間保管義務撤廃を実現する規制緩和プログラム」	(株)井之上パブリックリレーションズ

・「PRS」特別シンポジウム」

月例で開催している定例研究会の規模を拡大し、会員に限定することなく一般にも聴講を募り実施するセミナー。広報・PRにとってタイムリーかつ話題性のある企画を設定し、これからの時代における広報・PRの新たな方向性を探る。

平成28年度は、多様性社会を担う人材としてのこれからのPRプロフェッショナルが身につけるべきスキルやキャリア、人間力について、またこれからのPRプロフェッショナルはどのような働き方をすべきかについて、基調講演とパネルディスカッションを実施し議論した。

開催日	講座テーマ	講師
平成28年 10月27日 (水)	第4回 「多様性社会を担うPRプロフェッショナルの役割とキャリア像」	第1部 基調講演 「多様性社会におけるキャリアの積み重ね方」 講師：日経BP社 執行役員 麓 幸子氏 第2部 パネルディスカッション 「多様性社会におけるキャリアの積み重ね方」 ・モデレーター 麓 幸子氏 ・パネリスト MSD(株) 執行役員／広報部門統括 山下節子氏 (株)博報堂ケトル 代表取締役社長 嶋 浩一郎氏 (株)グローコム 代表 岡本純子氏 参加者：88名(会員64、一般13、PRプランナー(准・補)11、)

(3)「PRプランナー試験対応講座」

PRプランナー資格認定検定試験（1次試験・2次試験・3次試験）の受験者を対象に「PRプランナー認定資格」の取得を目的に、講義や演習を通じて合格に必要な広報・PRの知識やスキルの習得を目指し、PRプランナー資格認定検定試験に合格できる実力を養成する講座。

講座当日の会場での参加が難しい方向けに、Webでの受講も可能とした。

・「1次試験対応講座」

本講座は、PRプランナーを志す皆様の登竜門となる1次試験の合格を目的とし、合格に必要な広報・PRの基礎知識の習得に向けて、夏期と冬期の各々全4回で開講した。

講座では、1次試験の対象となる幅広い領域を4つに分け、4回の講義により解説を行った。また、実践的な対策となるよう模擬試験問題を配布し、受講者各自の学習への取組みを奨励した。参加者は夏期 会場受講39名（会員12、一般26、学生1）、Web受講22名（会員4、一般17、学生1）、計61名。冬期 会場受講20名（会員9、一般10、学生1）、Web受講32名（会員6、一般26）、計52名。

各々のプログラムは以下のとおり。

【夏期】

開催日	講座テーマ	講師
平成 28 年 7 月 13 日 (水)	・パブリックリレーションズの基本 ・企業経営と広報・PR活動 ・行政、団体などの広報活動 ・広報・PRマネジメント	(株)スペインクラブ 取締役社長 田代 順氏
7 月 20 日 (水)	・コミュニケーションとPR ・メディアリレーションズ ・マーケティングとPR	(株)スペインクラブ 取締役社長 田代 順氏
7 月 27 日 (水)	・インベスターリレーションズ ・エンプロイヤーリレーションズ ・広報・PRにおけるインターネットの活用	(株)エイレックス アカウントマネージャー 畑山 純氏
8 月 3 日 (水)	・国際広報 ・企業の危機管理 ・経営倫理とプロフェッショナリズム	(株)エイレックス アカウントマネージャー 畑山 純氏

【冬期】

開催日	講座テーマ	講師
平成 29 年 2 月 1 日 (水)	・パブリックリレーションズの基本 ・企業経営と広報・PR活動 ・行政、団体などの広報活動 ・広報・PRマネジメント	(株)スペインクラブ 取締役社長 田代 順氏
2 月 8 日 (水)	・コミュニケーションとPR ・メディアリレーションズ ・マーケティングとPR	(株)スペインクラブ 取締役社長 田代 順氏
2 月 15 日 (水)	・インベスターリレーションズ ・エンプロイヤーリレーションズ ・広報・PRにおけるインターネットの活用	(株)エイレックス アカウントマネージャー 畑山 純氏
2 月 22 日 (水)	・国際広報 ・企業の危機管理 ・経営倫理とプロフェッショナリズム	(株)エイレックス アカウントマネージャー 畑山 純氏

・「2 次試験対応講座」

PRプランナー2次試験の合格に向けて、受験に必要な科目のポイントについて履修する、インターネットを活用したオンデマンドの Web 講座。PRプランナー2次試験の試験範囲となる「科目A」「科目B」「科目C」「科目D」について、全14章にわたり、要点と参考問題、その解説を交え、ポイントについて履修する。「科目D」については、試験問題の出題範囲を解説し、これからの試験に活用できる出題傾向を習得する。平成25年度2月24日から販売を開始し、受講者は平成28年度3月30日付で全科目受講32名、1科目受講19名。

・「3 次試験対応講座」

本講座は、PRプランナー資格の取得における最難関である3次試験の合格を目的としており、合格に必要な知識やスキルを短期間で確実に身に付けることができ、受講者は、3次試験において高い合格率を誇っている。講座は、「ニュースリリースの作成」、マーケティングおよびコーポレートの各分野に関する「広報・PR計画の立案作成」について、それぞれ2週にわたる講義と演習で構成されており、試験の合格にフォーカスした実践的な内容は最も効果的な受験準備となることを目指して開講した。夏期と冬期の各々全6回で開講した。

参加者は夏期 会場受講 27 名（会員 11、一般 14、PRプランナー（准・補）2）、Web受講 29 名（会員 4、一般 19、PRプランナー（准・補）6）、計 56 名。冬期 会場受講 31 名（会員 9、一般 17、PRプランナー（准・補）5）、Web受講 39 名（会員 6、一般 33）、計 70 名。

各々のプログラムは以下のとおり。

【夏期】

開催日	講座テーマ	講師
平成 28 年 6 月 8 日 (水)	「ニュースリリースの作成法」	(株)電通パブリックリレーションズ ナレッジマネジメント部 部長 青田浩治
6 月 15 日 (水)		
6 月 22 日 (水)	「広報・PR計画の立案作成 (マーケティング課題)」	(株)オズマピーアール 営業戦略室 室長 野村康史郎氏
6 月 30 日 (木)		
7 月 6 日 (水)	「広報・PR計画の立案作成 (コーポレート課題)」	風間眞一広報事務所 代表 風間眞一氏
7 月 12 日 (火)		

【冬期】

開催日	講座テーマ	講師
平成 28 年 12 月 8 日 (木)	「ニュースリリースの作成法」	(株)電通パブリックリレーションズ ナレッジマネジメント部 部長 青田浩治
12 月 14 日 (水)		
12 月 21 日 (水)	「広報・PR計画の立案作成 (マーケティング課題)」	(株)オズマピーアール 営業戦略室 室長 野村康史郎氏
平成 29 年 1 月 5 日 (木)		
1 月 11 日 (水)	「広報・PR計画の立案作成 (コーポレート課題)」	風間眞一広報事務所 代表 風間眞一氏
1 月 17 日 (火)		

・新春PRフォーラム

平成28年度は新春特別講演として平成29年1月25日（水）、青山学院大学 教授（元共同通信社 論説委員長） 会田弘継氏を講師に迎え、「トランプ時代の世界情勢とパブリックリレーションズ」をテーマにご講演いただいた。参加者は70名（会員62、一般8）および取材10社。プログラムは以下のとおり。

開催日	講座テーマ	講師
平成29年 1月25日 (水)	「トランプ時代の世界情勢とパブリックリレーションズ」	青山学院大学 教授 会田弘継氏

・PRプランナーフォーラム

PRプランナー資格取得者に対し、より高度な知識やスキルの取得を促進し、広報・PRに対する社会的責務に応えられるプロフェッショナルの育成を目指すことを目的に5回（内 関西2回）開催した。平成28年度は教育支援活動を強化。2,000名以上のPRSJ認定PRプランナーが各方面に於いて活躍中であることを踏まえ、近年、関心の高まるWebを年間テーマに設定し、広報担当者向けにWebを活用した広報活動やマーケティング・コミュニケーション、さらにPRプランナーからも関心の高いリスク対応などについて講演を実施。また、初の取り組みとしてPRプランナーの認知拡大に向けて、PRプランナーによる紹介制度を導入し、非資格者で広報に興味のある方の参加も促した。プログラムは以下のとおり。

開催日	講座テーマ	講師
平成28年 7月26日 (火)	第6回 「広報担当者のための「Webで“伝わる”広報PR 7つのポイント」」(講演会形式)	トライベック・ストラテジー(株) 代表取締役社長 後藤 洋氏 参加者：63名
10月20日 (木)	第7回 「PRパーソンによるコンテンツ制作・インサイト発見法 ～新たなPR手法を探るワークショップ～」	(株)博報堂ケトル 代表取締役社長 嶋 浩一郎氏 参加者：27名
平成29年 2月23日 (木)	第8回 「最新ウェブリスク事情：広報が知っておくこと・やるべきこと」	ビーンスター(株) 代表取締役 鶴野充茂氏 参加者：25名

【PRプランナーフォーラム（関西）】

開催日	講座テーマ	講師
平成28年 11月17日 (木)	第3回 「広報担当者のための「Webで“伝わる”広報PR 7つのポイント」」(講演会形式)	トライベック・ストラテジー(株) 代表取締役社長 後藤 洋氏 参加者：24名
平成29年 1月19日 (木)	第4回 「PRパーソンによるコンテンツ制作・インサイト発見法 ～新たなPR手法を探るワークショップ～」	(株)博報堂ケトル 代表取締役社長 嶋 浩一郎氏 参加者：27名

・ 定例会

今日のテーマを選定し、マスコミ（海外メディアも含む）を中心に有識者など、各界から旬の講師を招いて講演会と参加者相互の懇親交流会実施し、併せて屋外活動の一環として、旬のスポット「見学会」を企画運営した。年間8回を目標に、広報業務の研鑽と会員相互の交流・親睦を図ることを目的に開催した。延べ255名（会員230、一般25）（1回あたり約32名）。

開催日	講演テーマ	講 師
平成28年 4月25日 (月)	第246回 「新聞の信頼性について～過去の誤報の検証を通じて」	読売新聞大阪本社 編集局次長 常松健一氏 参加者47名(会員42、一般5)
5月21日 (木)	第247回 「水都再生 ～官民協調で広報力強化へ」	伴ピーアール㈱ 代表取締役社長 伴 一郎氏 参加者23名(会員21、一般2)
7月1日 (金)	第248回 「京都鉄道博物館」訪問	参加者40名(会員32、一般8)
9月30日 (金)	第249回 「国際報道の現場 ～躍動するアジア取材の経験から」	龍谷大学 教授 藤田 悟氏 参加者18名(会員17、一般1)
10月20日 (木)	第250回 ダイキン工業㈱ 「テクノロジー・イノベーションセンター」 見学会	参加者22名(会員18、一般4)
12月15日 (木)	第251回 「大統領選後の日米関係」	同志社大学 法学部教授 村田晃嗣氏 参加者34名(会員32、一般2)
平成29年 2月16日 (木)	第252回 「共同通信大阪経済部の編集方針と取材体制」	共同通信大阪 経済部長 高橋雅哉氏 参加者45名(会員43、一般2)
3月30日 (木)	第253回 「トランプの時代をどう生き抜くか ～激動期の経営リーダーの思想」	財界研究所 社長・主幹 村田博文氏 参加者26名(会員25、一般1)

・ 2016年度広報基礎講座

新人・新任広報、広報・PR担当者やPRプランナーを目指す人達向けの講座を平成28年度は1日開催で広報とは何か、基礎を確認できる内容として、7月22日（金）開催した。午前中は「デスクが語る本音～記者が喜ぶ記事、青ざめる記事」をテーマに、午後は「PRの極意～語りたくなる情報コンテンツの作り方と流し方」および「ネット広報の活用」と題して開講した。参加者は23名（会員19、一般4）。プログラムは以下のとおり。

開催日	講座テーマ	講 師
平成 28 年 7 月 22 日 (金)	第 1 講座 「デスクが語る本音～記者が喜ぶ記事、 青ざめる記事」	産経新聞大阪本社 編集局 経済部次長 篠田丈晴氏
	第 2 講座 「PRの極意～語りたくなる情報コンテンツの 作り方と流し方」	(株)電通パブリックリレーションズ シニアコンサルタント 井澤祐美氏
	第 3 講座 「ネット広報の活用 ～基礎から応用・実践 まで」	(株)TMオフィス 代表取締役 殿村美樹氏

・第 29 回広報学校

新人・中堅 P R パーソン対象に 11 月 30 日 (水)・12 月 1 日 (木) の 2 日間にわたり開催した。平成 28 年度はテーマを「いざ!」という時にどう対応すべきか。リスクコントロールおよびリスクマネジメントに絞り、「即 役立つ!」実践的な内容で開講した。
参加者は 51 名 (会員 49、一般 2)。プログラムは以下のとおり。

開催日	講座テーマ	講 師
平成 28 年 11 月 30 日 (水)	第 1 講座 第 1 部 「緊急時のメディア対応 ～企業を守るクライ シス・コミュニケーションの基本と実務～」	(株)エイレックス アカウント・マネージャー 畑山 純氏
	第 1 講座 第 2 部 「ソーシャルメディアの危機対応」	(株)エイレックス シニアアカウント・エグゼクティブ 早川忠宏氏
12 月 1 日 (木)	第 2 講座 「危機管理が明暗を分ける ～多様化、深 刻化するリスクに備えを～」	日本経済新聞大阪本社 編集局経済部 編集委員 塩田宏之氏
	第 3 講座 「不祥事発生! テレビ会見の怖さとその 対応～二次被害をどう防ぐか」	毎日放送(MBS) コンプライアンス室 エグゼクティブ 兼広報部長 岸本文利氏

・拡大関西西部会広報ゼミナール

広報実務に直結し、受講者の役に立つ実践セミナーを目的に開催。平成 28 年度は「日経新聞の作り方・読み方」のテーマで開催した。数々のスクープ放つ日本経済新聞の源泉は何であるのか。取材体制は経済部、企業報道部、証券部などに分かれており、社内での各部間の競争の激しさなどの事情を伺うとともに広報から見た「率直な疑問」にも言及いただいた。
出席者は 49 名 (会員 49、一般 0)。プログラムは以下のとおり。

開催日	講座テーマ	講 師
平成 28 年 8 月 31 日 (水)	「日経新聞の作り方・読み方」	日本経済新聞東京本社 経済解説部 編集委員 竹田 忍氏

・新春PRフォーラム関西

新年のスタートにあたり、内外の話題性のあるテーマと講師を選定して開催。平成 28 年度は、「皇室の在り方を考える～生前退位を巡って」のテーマで開催した。世界でも例を見ないわが国の皇室制度の在り方を伺った。参加者は 28 名（会員 19、一般 9）。

開催日	講座テーマ	講 師
平成 29 年 1 月 20 日 (金)	「皇室の在り方を考える ～天皇退位（譲位）を巡って」	モラロジー研究所 教授 (京都産業大学 名誉教授) 所 功氏

3. パブリックリレーションズに関する人材育成

PRプランナー資格認定制度は、広く社会の発展に寄与するPRパーソンとしての知識、スキル、職能意識を有することを認定し、広報・PR活動の社会的認知の拡大をはかり、広報・PR業務に携わる人材の育成と技能向上に寄与することを目的として、PR関連会社や企業の広報部門のPR担当者はもちろんのこと、将来PR関連業界や広報・PR部門での業務を希望する人やビジネスパーソンに求められる広報・PRに関する知識やスキルを持ちたいと考えている人など、幅広い層の人を対象に、広報・PRの基本的な知識から実践的なスキルまでを問う資格検定試験である。実施要領、合格基準、合格率、参考問題を資格Webサイトに掲載し、広く一般に受験の機会を公開。また、主なPRプランナー取得企業・団体、PRプランナー認定更新者優待対象セミナーなど、試験以外の情報も資格Webサイトを通して一般に公開した。

・PRプランナー資格認定制度

PRプランナー資格検定試験の第18回の2次、3次試験、第19回の1、2、3次試験、第20回の1次試験、それぞれの募集と実施運営、PRプランナー資格認定業務に取り組んだ。第18回資格検定試験において、受験者数は2次試験に185名、3次試験に185名が受験し、結果として171名の2次試験合格者、86名の3次試験合格者となった。また、第19回資格検定試験において、受験者数は1次試験に516名、2次試験に277名、3次試験に191名が受験し、結果として414名の1次試験合格者、219名の2次試験合格者、100名の3次試験合格者となった。平成29年3月に実施した第20回資格1次試験では529名が受験し、417名の1次試験合格者となった。なお、第19回1次試験（8月実施）と第20回1次試験（3月実施）では、平成19年（2007年）9月に実施した第1回1次試験を除き、それぞれ過去最大の受験申込者、受験者、合格者となった。第18回と第19回の2回の検定試験を通じて、181名のPRプランナー、95名の准プランナー、160名のPRプランナー補が新たに誕生し、結果として、平成28年度末において、累計で2,200名のPRプランナー、829名の准プランナー、2303名のPRプランナー補が登録されている。当委員会の活動としては成果をあげたものと考ええる。

第1回～第20回1次試験 合格率の推移

試験実施日	申込者数	受験者数	合格者数	合格率
第1回（2007年9月1日）	788名	752名	723名	96.1%
第2回（2008年3月9日）	431名	397名	301名	75.8%
第3回（2008年8月30日）	417名	379名	282名	74.4%
第4回（2009年3月8日）	457名	421名	347名	82.4%
第5回（2009年8月30日）	490名	441名	312名	70.7%
第6回（2010年3月7日）	423名	371名	311名	83.8%

第7回 (2010 年 8 月 29 日)	382 名	346 名	255 名	73.7%
第8回 (2011 年 3 月 5 日)	402 名	372 名	293 名	78.8%
第9回 (2011 年 8 月 28 日)	403 名	371 名	269 名	72.5%
第10回 (2012 年 3 月 4 日)	446 名	399 名	298 名	74.7%
第11回 (2012 年 8 月 26 日)	452 名	419 名	310 名	74.0%
第12回 (2013 年 3 月 3 日)	493 名	450 名	270 名	60.0%
第13回 (2013 年 8 月 25 日)	508 名	470 名	345 名	73.4%
第14回 (2014 年 3 月 2 日)	498 名	447 名	295 名	66.0%
第15回 (2014 年 8 月 24 日)	464 名	432 名	308 名	71.3%
第16回 (2015 年 3 月 1 日)	466 名	422 名	258 名	61.1%
第17回 (2015 年 8 月 23 日)	480 名	451 名	376 名	83.4%
第18回 (2016 年 3 月 6 日)	462 名	419 名	208 名	49.6%
第19回 (2016 年 8 月 21 日)	552 名	516 名	414 名	80.2%
第20回 (2017 年 3 月 5 日)	587 名	529 名	417 名	78.8%
累計	9,601 名	8,804 名	6,592 名	74.9%

第1回～第19回2次試験 合格率の推移 ※4科目一括のみ

試験実施日	申込者数	受験者数	合格者数	合格率
第1回 (2007 年 11 月 11 日)	430 名	422 名	342 名	81.0%
第2回 (2008 年 5 月 18 日)	185 名	173 名	112 名	64.7%
第3回 (2008 年 11 月 16 日)	166 名	148 名	84 名	56.8%
第4回 (2009 年 5 月 17 日)	229 名	208 名	169 名	81.3%
第5回 (2009 年 11 月 14 日)	216 名	194 名	170 名	87.6%
第6回 (2010 年 5 月 16 日)	242 名	226 名	186 名	82.3%
第7回 (2010 年 11 月 14 日)	212 名	200 名	166 名	83.0%
第8回 (2011 年 5 月 15 日)	241 名	224 名	145 名	64.7%
第9回 (2011 年 11 月 13 日)	194 名	180 名	139 名	77.2%
第10回 (2012 年 5 月 13 日)	216 名	197 名	137 名	69.5%
第11回 (2013 年 1 月 26 日)	236 名	212 名	143 名	67.5%
第12回 (2013 年 5 月 19 日)	232 名	210 名	156 名	74.3%
第13回 (2013 年 11 月 17 日)	286 名	253 名	197 名	77.9%
第14回 (2014 年 5 月 18 日)	233 名	208 名	147 名	70.7%
第15回 (2014 年 11 月 16 日)	255 名	220 名	143 名	65.0%
第16回 (2015 年 5 月 17 日)	235 名	205 名	151 名	73.7%

第17回(2015年11月15日)	298名	264名	176名	66.7%
第18回(2016年5月16日)	205名	185名	171名	92.4%
第19回(2016年11月16日)	317名	277名	219名	79.1%
累計	4,628名	4,206名	3,153名	75.0%

第1回～第19回3次試験 合格率の推移

試験実施日	申込者数	受験者数	合格者数	合格率
第1回(2008年1月19日)	305名	297名	145名	48.8%
第2回(2008年7月26日)	250名	232名	182名	78.4%
第3回(2009年1月24日)	164名	156名	128名	82.1%
第4回(2009年7月25日)	204名	193名	146名	75.6%
第5回(2010年1月23日)	200名	193名	148名	76.7%
第6回(2010年7月24日)	206名	199名	133名	66.8%
第7回(2011年1月22日)	180名	174名	107名	61.5%
第8回(2011年7月23日)	193名	185名	120名	64.9%
第9回(2012年1月21日)	200名	168名	96名	57.1%
第10回(2012年7月21日)	210名	176名	113名	64.2%
第11回(2013年1月26日)	196名	160名	118名	73.8%
第12回(2013年7月27日)	213名	173名	110名	63.6%
第13回(2014年1月25日)	205名	171名	132名	77.2%
第14回(2014年7月26日)	154名	148名	109名	73.6%
第15回(2015年1月24日)	136名	128名	84名	65.6%
第16回(2015年7月15日)	142名	138名	89名	64.5%
第17回(2016年1月23日)	164名	154名	93名	60.4%
第18回(2016年7月23日)	196名	185名	86名	46.5%
第19回(2017年1月21日)	203名	191名	100名	52.4%
累計	3,721名	3,421名	2,239名	65.4%

(1) 実施運営

- ・第18回の2次、3次試験、第19回の1次、2次、3次試験、第20回の1次試験の募集と実施運営、資格認定業務に取り組んだ。
- ・申込受付、試験運営、試験問題作成および採点業務などは事務局、資格委員、試験委員および外部委託会社と一体となって取り組んだが、3次試験の採点評価などについては、引き続き会員各位の協力を得て取り組んだ。
- ・第18回2次試験は東京・大阪・福岡で、第19回1次試験は、東京・大阪・札幌・名古屋で、2次試験は、東京・大阪・名古屋で、第20回1次試験は東京・大阪・福岡でそれぞれ実施した。

(2) 広報普及

- ・主に第19回、第20回の1次試験実施に向けて会員各位の協力を得た上で、会員社社員の受験促進に取り組んだ。あわせて、日本広報学会、大学などの関係機関、外部セミナー機関などを通じて学生、一般社会人への受験を積極的に働きかけた。さらに企業の教育プログラムでの推薦資格として位置付けられないかなど、人材開発、人事部へのアプローチを行った。
- ・平成28年度も27年度に引き続き、PRプランナー合格者の声、実施要項、参考問題、取得企業などの情報をまとめた広報普及ツール「PRプランナーのPR誌」を更新し、広報領域の大学関係者への働きかけと、地方会場のさらなる広報普及に役立てた。
- ・平成27年度と同様に、資格Webサイトや協会ニュースでの告知や、資格取得に関心のある読者層をターゲットにした媒体への広告出稿などに取り組んだ。特に一般社会人への告知が重要であるとの認識で広報普及活動を展開し、長期、安定的な受験につなげた。
- ・Web媒体を含めた一般マスコミに対しても、活躍しているPRプランナーの紹介など、様々な切り口での取材を働きかけ、PRプランナーの認知度向上、ステータス向上に向け、同時に協会自体のアピールにも寄与した。
- ・資格Webサイトに設置されているPRプランナー取得者向けページ「PRプランナーの広場」に、PRプランナー取得者の声「VOICE of PR Planner」や、資格の公式Facebook更新など、更なる普及に努めた。

(3) 試験問題の作成および採点

- ・より公正で納得性の高い検定試験を目指して、試験問題の作成に取り組んだ。特に試験問題の品質の向上と水準の安定化を図るため、過去問題の正答状況などの結果分析をもとに、それらを反映した試験問題の作成に取り組んだ。
- ・難易度の高い3次試験に関しては、採点基準の一層の安定化を目指すために、さらなる採点の標準化に取り組んだ。
- ・昨年度から継続して、中長期におけるPRプランナー試験項目内容の見直しについての検討を行った。

(4) 参考図書の改訂

- ・平成28年度は、新試験体系の策定と、新試験体系に対応した新テキストの編集作業に取り組んだ。また、原稿提出の遅れ、執筆原稿の不備を解消するため、新推進体制を設立した。
- ・新テキスト編集作業では、1次テキストを中心に、執筆者から提出された原稿を広報・PRを取り巻く環境変化に対応するよう必要な部分について内容を改訂。さらに1次試験項目の整理と記載内容の深さ（難易度）の両面から編集作業を行った。
- ・今後は、1次テキストの最終稿が完成した時点で、2次・3次テキストの編集作業を、1次テキストの内容と比較検討しながら行い、2次・3次テキストの最終稿が完成した時点で、新試験項目の調整を開始する。

・PRプランナー交流会

PRプランナー同士の交流および情報交換の場の提供を目的とし、平成28年度は「PRプランナー交流会」（年2回）と「朝活セミナー&交流会」（年3回）を開催。PRプランナー同士の交流をはじめ、新規資格取得者との交流の場として延べ169名が参加した。参加を機に協会活動を知り、その後積極的に部会へ参加する方もおり、一定の役割を果たした。参加者からは、危機管理に関する生の声を聞くことができる良い機会といった評価があり、また講演者からも一定の見識と経験を持つPRパーソン向けとしてより踏み込んだ内容を話すことができた、との評価を得た。特に朝8時から開催した「朝活セミナー&交流会」では、夜の時間帯のイベントでは子育てなどで参加できない女性のPRプランナーからも評価を頂いた。プログラムは以下のとおり。

開催日	内容	講師
平成 28 年 5 月 20 日 (火)	第 14 回 日本航空(株)(JAL) 羽田整備場「JALメンテナンスセンター」見学 同社の広報戦略について(トークセッション)	日本航空(株) 溝之上正充氏 参加者:61 名
11 月 9 日 (水)	第 15 回 朝日新聞東京本社施設見学(編集部・印刷工場など) 同社広報部長のレクチャー・トークセッション	朝日新聞社 岡本 順氏 中村史郎氏 田島幸治氏 参加者:59 名

【PRプランナー朝活セミナー&交流会】

開催日	内容	講師
平成 28 年 6 月 21 日 (火)	第 1 回 「記事事例から学ぶインタビュー対応の極意」	(株)スペインクラブ 取締役社長 田代 順氏 参加者:19 名
10 月 4 日 (火)	第 2 回 「All About の編集とWebメディアが広報に求めること」	(株)オールアバウト メディアビジネス事業部 コンテンツプロデュース部 ジェネラルマネジャー 大塚 晋氏 参加者:28 名
平成 29 年 1 月 17 日 (火)	第 3 回 「企業広報戦略研究所の『オクトパスモデル』分析をもとに自社の広報力を知ろう!」	(株)電通パブリックリレーションズ 企業広報戦略研究所 主席研究員 黒田明彦氏 参加者:29 名

4. パブリックリレーションズに関する顕彰

会員・非会員の優れた広報・PR活動や協会運営に貢献した功労者などを顕彰することにより、広く一般にパブリックリレーションズに対する一層の理解促進を図り、協会活動を広く知らしめることを目的としている。平成 28 年度も実施要項などを協会Webサイトに掲載し、受賞者および受賞作品はニュースリリース、Webサイトおよび協会出版物などで広く公開した。

・日本PR大賞

PRに対する理解促進を目的に、平成 28 年度も「2016 年度 日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」および「2016 年度 日本PR大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」を選考し、顕彰した。

・「日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」

日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤーは、さまざまな分野で活した人の中から、1 年を通じてその話題性や好感度の高さ、さらに活動を通じてPR本来の目的である“公益に資する”という観点から、最も活躍し、さらに貢献度の高かった人を表彰する制度で、協会メンバーの投票の結果、2016 年度は東京都知事 小池百合子氏を選出、表彰することを決定した。Webでの投票を導入した会員投票は、59 票の回答があり、過去最多となった。

受賞者	受賞理由
小池百合子氏	2016年7月31日、東京都知事選挙で見事に当選を果たした小池百合子氏。知事就任後も過去のしがらみを断ち、都民目線に立った一連の改革姿勢が広く都民の支持を獲得している。透明性の高い、開かれた都政の実現に向けて、都政の『見える化』に向けて積極的な情報開示に取り組んでおり、とりわけ都民との対話を重視した双方向のコミュニケーションを目指す姿勢は、まさにPR(パブリックリレーションズ)の原点であり、PRの潜在力を社会に示した功績は大きい。

・「日本PR大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」

日本PR大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」は、長きにわたって独創的な事業活動、さらにPR活動を実践しながら、広く社会や地域の発展に大きく貢献している企業や団体を対象に選考する制度で、協会メンバーによる投票の結果、2016年度は熊本県マスコットキャラクターのくまモンを選出、表彰することを決定した。Webでの投票を導入した会員投票は、57票の回答があり、過去最多となった。

受賞者	受賞理由
くまモン	熊本県が2010年から「くまもとサプライズ」キャンペーンで展開している熊本県PRマスコットキャラクター。“熊本県の営業部長 兼 しあわせ部長”で、2011年ゆるキャラグランプリの王者。関連商品の売上は2015年度に1,000億円を超えたといわれ、その経済効果からアベノミクスならぬ「くまモミクス」という言葉も生まれた。先の熊本地震では、復興のシンボルとして精力的に活動を続け、被災者を訪ねてはコミカルな動きで笑いをとりながら支援の輪を広げ、避難生活を送っている人びとを勇気づけた。

・「PRアワードグランプリ」

コミュニケーション活動（広報・PR活動）の事例を広く募集し、審査を通して優秀な活動を表彰・公開し、わが国におけるコミュニケーション技術の質的向上およびパブリックリレーションズに対する一層の理解促進を図った。平成28年度は審査体制を一新し、企業広報やPR関連会社で高い実績と経験を備えた8名の審査員団が、エントリー全作品を書類段階からグランプリ選出まで一貫して選考に当たった。さらに最終審査となるグランプリ選出審査では、審査員団に加えて特別審査員が審査に参画し、PRのプロフェッショナルが部門の枠を超えて、PR業務の最高峰を選出するアワードの実現を目指した。また、前年度同様、経済産業省、日本広報学会、公益社団法人日本広報協会の後援をいただいた。

平成28年度は以下の5部門での募集となった。

- (イ) コーポレート・コミュニケーション部門
- (ロ) マーケティング・コミュニケーション部門
- (ハ) ソーシャル・コミュニケーション部門
- (ニ) インターナル・コミュニケーション部門
- (ホ) 研究・開発部門

9月1日（木）～10月31日（月）までの応募期間で、本年度のエントリー応募総数は107作品（昨年は57作品）で過去最大の応募数となった。各部門のエントリー数は以下のとおり。

- コーポレート・コミュニケーション部門 : 14 作品
- マーケティング・コミュニケーション部門 : 39 作品
- ソーシャル・コミュニケーション部門 : 25 作品
- イノベーション／スキル部門 : 22 作品
- 研究・開発部門 : 7 作品

なお、非会員からの応募は19作品でやはり過去最多であった。

11月14日に審査団によるグランプリ候補作審査会を開催した。ここで審議した結果、シルバー以上8作品とブロンズ10作品が決定し、12月7日(水)のグランプリ選出審査会での発表となった。

グランプリ選出審査会は、12月7日(水)六本木アカデミーヒルズ49「オーディトリウム」で開催され、特別審査員3名・審査団8名により実施され、その結果、2016年度グランプリは、エントリー会社(株)井之上パブリックリレーションズの「スマートフォン(スマホ)での領収書電子化と原本の長期間保管義務撤廃を実現する規制緩和プログラム ～日本企業の利益率とビジネスパーソンの生産性向上を阻害する紙での経費精算業務を駆逐し、働き方革命実現へ～」がグランプリに決定した。

各賞の受賞作品は以下のとおり。

賞	活動の名称	エントリー会社
グランプリ	「スマートフォン(スマホ)での領収書電子化と原本の長期間保管義務撤廃を実現する規制緩和プログラム ～日本企業の利益率とビジネスパーソンの生産性向上を阻害する紙での経費精算業務を駆逐し、働き方革命実現へ～」	(株)井之上パブリックリレーションズ
ゴールド	「PRのチカラでウナギの絶滅を防げ!「近大発ナマズ」の研究・広報一体化コミュニケーション戦略」	学校法人 近畿大学
ゴールド	「LOVE THERMO #愛してるで暖めよう」	(株)電通パブリックリレーションズ (株)電通 電通アイソバー(株)
ゴールド	「森永製菓『フレフレ、部活。母校にinゼリー』キャンペーン」	(株)電通
ゴールド	「カルビーフルグラ 2011年から2016年度までの5年間で売上37億→223億まで成長させた朝食革命」	(株)博報堂 (株)エムスリー・カンパニー
シルバー	「心臓病の子どもたちの“初めての運動会”～Challenging Heart Day～」	(株)オズマピーアール
シルバー	「『美婆伝』90歳を越えても美しく働き続ける11人の物語 ～ポーラ、ビューティーディレクターの仕事への「誇り」「やりがい」を醸成する取り組み～」	(株)ポーラ・オルビスホールディングス
シルバー	「ADK RECRUIT2017 相棒採用」	(株)アサツー ディ・ケイ
シルバー	「SEKIシティプロモーション」	関市 (株)オズマピーアール
ブロンズ	NHKプロフェッショナル私の流儀	日本放送協会
ブロンズ	「ソーシャルメディア時代の“技術訴求コンテンツPR”プリウス部品の擬人化キャンペーン『PRIUS! IMPOSSIBLE GIRLS』」	(株)電通
ブロンズ	「『心止村湯けむり事件簿 AEDサスペンスドラマゲーム』～ユーザーとメディアが自ら広め続ける「エンタメコンテンツPR」～」	(株)大広
ブロンズ	「奈良大学 全学学生プロジェクト 美し記 ～utsukushiki～」	(株)博報堂
ブロンズ	「10分どん兵衛」	(株)電通

ブロンズ	「広告会社だからこそその休暇取得促進施策 「BRUTUS 特別編集フリバカノカタログ」」	(株)博報堂 (株)博報堂DYメディアパートナーズ
ブロンズ	「世界初！オンライン会議システム×メーキャップ シミュレーター機能で、オンライン会議のためだけ のメイクから在宅勤務女性を開放する新アプリ 「TeleBeauty (テレビューティ)」発表。」	(株)資生堂 (株)博報堂ケトル
ブロンズ	「アキュビュー® スポ×コン応援団「読めない看 板」」	(株)ブラップ ジャパン
ブロンズ	「企業サービス浸透プロジェクト「史上初、Airbnb で東京タワーに泊まろう！」」	Airbnb Japan(株) (株)ブラップジャパン
ブロンズ	「Second Life Toys」	(株)電通

Ⅱ．収益事業（パブリックリレーションズに関する出版物の発行）

・ PRSJ Yearbook

日本PR協会の活動報告書として、広報・PRの普及浸透を図ることを目的として2016年版「2016 PRSJ Yearbook」を制作した。会員だけでなく広く広報に関わる方々に当協会の活動を理解いただけるように内容を一新した。優れた広報活動と実践者を顕彰する「PRアワードグランプリ」「日本PR大賞」を広報・PRの普及啓発のコアコンテンツとして紹介し、加えて、将来の広報界を担うPRプランナーの育成のための情報を拡充した。協会活動を広め、新会員獲得のためにも配布を行い、積極活用を目指している。

・ 広報・マスコミハンドブック（PR手帳）

『広報・マスコミハンドブック（PR手帳）2017年版』（手帳サイズ、268ページ）を平成28年11月25日から、首都圏をはじめ、大阪、名古屋、福岡、札幌など大都市圏の大手書店、およびアマゾンなどのネット書店で発売を開始した。

主要コンテンツと掲載データは以下のとおり。

今を読み解くkeyword／知っておきたいFactdata／「パブリックリレーションズ」の解説／広報業務チェックリスト／PR・IR用語ミニ辞典／PR関連団体／企業の文化施設／主要メディア連絡先一覧／主要サイト一覧／記者クラブ／官公庁・各種団体／イベント会場／2017年記念日カレンダー／海外PRアワード受賞作品 など

内容は常に鮮度の高い情報を提供するため、毎年刷新して実務により役立つ内容を充実させ、最新データに更新している。2017年度版では、愛用者の利便性を担保しつつ、新たな情報としてネットやSNSの利用が増えた現代の広報・PRに不可欠なニュースサイトやアプリケーションの項目をさらに増やした。

・ PRプランナー資格認定検定試験対応テキストの作成および販売

- ・「広報・PR概論」は平成29年2月に改訂版第8刷を1,000部増刷した。これまでに刊行された初版、重版を合わせると、10,500部を出版した。平成28年度3月末時点では、残560部となっている。
- ・「広報・PR実務」は、2016年版第6刷を平成29年2月に500部増刷した。これまでに刊行された初版、重版を合わせると、4,300部を出版した。平成28年度3月末時点では、残380部となっている。
- ・過去問題集「広報・PR資格試験問題集 PRプランナー資格認定制度 1次・2次・3次試験過去問題集 2017年版」を平成29年2月に1,000部刊行した。これまでに刊行された初版、重版を合わせると、7,500部を出版した。平成28年度3月末時点では、2017年増補版残540部となっている。

Ⅲ. その他事業（会員の交流事業・会員向けセミナー・研究会および広報活動など）

・会員の交流事業

会員相互の交流促進のために、情報交換や人的交流の場を提供し、会員の人的ネットワーク拡大に寄与した。特に、協会に加盟することのメリットを享受できることを主眼に、前年度に引き続き、以下の活動を開催した。

・夏季情報交換会

会員相互の交流を通じ、協会の諸活動理解の一助として、毎年開催している。平成 28 年度は、7 月 28 日（木）スペシャルゲストに、2015 年にノーベル医学生理学賞を受賞した大村 智北里大学特別栄誉教授の親族（父が従兄弟）で毎日新聞記者 大村健一氏を迎えて、京鼎樓 恵比寿本店で開催した。ノーベル賞受賞と広報・マーケティング活動の関連など、広報・PR 関係者にとり大変参考になるお話を伺ったあと、講師・会員相互の交流会を実施、盛況な会合となった。参加者は 47 名。

開催日	講演テーマ	講 師
平成 28 年 7 月 28 日 (木)	「ノーベル賞同行記」	毎日新聞東京本社 デジタルセンター記者 大村健一氏

・なでしこカウンスル

女性広報担当者を対象として、広報に携わる女性の研鑽や交流を目的とした企画を実施する研究会。平成 28 年度も 6 月 2 日（木）と 12 月 12 日（月）の 2 回、女性会員および会員社の女性広報担当者を対象に開催した。平成 28 年 4 月から施行された女性活用推進法の趣旨に鑑み、当協会女性会員の活躍につながる啓発的なプログラムとなった。企業に頼るだけでなく、女性自身も自腹で勉強するなど実力アップのための努力をしよう、などの講演には出席者の共感が集まった。プログラムは以下の通り。

開催日	講演テーマ	講師/参加者
平成 28 年 6 月 2 日 (木)	「プレジデントウーマン創刊までのいきさつと女性活躍推進PR 5 つのメリット」	プレジデント社 「プレジデントウーマン」編集長 今井道子氏 参加者:45 名
12 月 12 日 (月)	「ハッピー・ウーマンになろう ～キャリアもプライベートも～」	日経BP社 日経BPヒット総合研究所長・執行役員 麓 幸子氏 参加者:20 名

・親睦ゴルフ会

平成 28 年度は 11 月 22 日（火）に第 45 回親睦ゴルフ会を矢野ヒルズカントリークラブで開催する予定だったが、準備期間が短く参加者が少なかったため、今回は延期とし、改めて平成 29 年度 4 月 6 日（木）に開催することとなった。

・企業部会交流会

企業部会の活性化を図るべく、企業部会交流会として単独での開催を計画したが、企業部会フォーラム・広報活動研究会・広報ゼミといった各企画において、部会活動の活性化の趣旨も包含して注力したため、企業部会交流会としての単独開催には至らなかった。次年度以降では、協会全体レベルで実施される交流会などにおいて、企業部会として協調を目指す。

・会員向けセミナー／研究会など

・定例研究会

マスメディアやオピニオンリーダーなどのキーパーソンを招き、タイムリーなテーマを取り上げて開催している。平成28年度は8回実施、延べ520名（前年536名／10回実施）の参加（1回平均65名）となり、前年と比較すると、結果的に1回平均11名ほどの参加者増となった。28年度は好評のうちに終了した。

開催日	講座テーマ	講 師
平成 28 年 5 月 24 日 (火)	第 174 回 「進化する『ワールドビジネスサテライト』のニュース報道 ～2016 年度 マイナーチェンジにみる『WBS』の新展開～」	(株)テレビ東京 「ワールドビジネスサテライト」 プロデューサー 名倉幸治氏 参加者:82 名
6 月 24 日 (金)	第 175 回 「スクープ街道を驍進する『週刊文春』の取材と編集 ～隠された真実に切り込む週刊誌の調査報道～」	(株)文藝春秋 「週刊文春」編集長 新谷 学氏 参加者:81 名
7 月 22 日 (金)	第 176 回 「ビジネス・消費の最新動向を伝える『日経MJ』の新聞作り ～市場や企業のどこに着目して取材・編集を進めるか～」	日本経済新聞社 「日経MJ」編集長 中村直文氏 参加者:68 名
9 月 28 日 (水)	第 177 回 「“読者目線”に徹する『BuzzFeed Japan』の新展開 ～目指すは「世の中へのポジティブなインパクト」～」	BuzzFeed Japan(株) 創刊編集長 古田大輔氏 参加者:54 名
10 月 25 日 (火)	第 178 回 「『日経ビジネス』の編集とこれからのメディア展開 ～三位一体のビジネスメディア戦略を探る～」	日経BP社 「日経ビジネス」編集長 飯田展久氏 参加者:71 名
11 月 24 日 (木)	第 179 回 「NHKがめざすこれからの経済報道 ～NHK経済部の今と今後の報道展開を語る～」	日本放送協会(NHK) 報道局取材センター 経済部 部長 絹川智紹氏 参加者:68 名
平成 29 年 2 月 3 日 (金)	第 180 回 「“報道の本流”を直走るTBS『NEWS23』のこれから ～ニュース番組の制作と広報・PR関係者へのアドバイス～」	TBSテレビ 報道局ニュース部 『NEWS 23』番組プロデューサー 萩原 豊 氏 参加者:59 名
3 月 15 日 (水)	第 181 回 「フェイクニュースを生むネットメディアの歴史と構造 ～ネット時代におけるジャーナリズムとメディアリテラシーを考える～」	法政大学 准教授／ジャーナリスト 藤代裕之氏 参加者:37 名

・特別国際セミナー

PR 担当者の国際的視野育成に寄与するため、海外メディアや海外のソートリーダーを講師にした勉強会を企画・開催する予定だったが、平成 28 年度は相応しい講師および内容が日程などで合致せず、開催できなかった。

・異文化勉強会

諸外国と日本の PR 関係者との関係構築と国際的視野を広げるための勉強の場を提供するため、平成 28 年度も 2 回駐日大使館の訪問を企画した。開催概要は以下のとおり。

開催日	講演テーマ	講師／内容
平成 28 年 7 月 15 日 (金)	「在東京タイ王国大使館 訪問」	① 大使によるブリーフィング(逐次通訳付) ② 日本 PR 協会理事長によるご挨拶 ③ 外交官によるプレゼンテーション ④ タイ料理のランチビュッフェ ⑤ 大使公邸を見学 参加者:40 名
平成 29 年 1 月 13 日 (金)	「イラン・イスラム共和国大使館 訪問」	① 大使によるブリーフィング(逐次通訳付) ② 日本 PR 協会理事長によるご挨拶 ③ 書記官によるプレゼンテーション／ 質疑応答 ④イラン料理のディナービュッフェ (大使公邸) 参加者:69 名

・企業部会フォーラム

企業部会フォーラムは企業部会会員全体が集う場として、協会活動の理解と参画、会員相互の親睦を目的に会員の直近のニーズをテーマに外部講師を招いた講演会の形式で開催。平成 28 年度はメディア（新聞・雑誌）の編集担当をお迎えし、2 回開催した。両回とも終了後に懇親会を開催し、会員同士の交流を深めた。

開催日	講演テーマ	講師/参加者
平成 28 年 5 月 23 日 (月)	第 15 回 「社会部記者と社会部報道」	毎日新聞東京本社 編集編成局 編集次長 山本修司氏 参加者:34 名
10 月 21 日 (金)	第 16 回 「週刊ダイヤモンドの特集と独自の編集方針」	ダイヤモンド社 「週刊ダイヤモンド」編集長 田中 博氏 参加者:28 名

・広報活動研究会

企業の広報部門やショールーム、お客様向け施設を訪問し、幅広い視点から、さまざまな活動事例や、組織や業務のあり方を学ぶことで、自社の広報部門における活動に向けたヒントを持ち帰っていただくことを目的として開催。平成 28 年度は各社の協力のもと、3 回開催した。いずれの回も見学後懇親会を開催し、会員同士の交流を図った。

開催日	内 容	
平成 28 年 7 月 29 日 (金)	第 15 回 花王(株) 「花王が提案する清浄文化 すみだ事業場『花王ミュージアム』 見学会	創業以来、清浄文化や清浄生活の向上に深くかかわってきた同社の「花王ミュージアム」を訪問。実例展示と解説を通して、花王の歴史、企業理念、清浄文化、お客様とのコミュニケーション姿勢など多くのことを学んだ。どんな質問にも答えるという姿勢と、お客様の声を速やかに商品に反映させるという姿勢が徹底されており、商品をお客様に届けるまで、届いてからも常に「お客様ファースト」が貫かれている一端に触れさせていただいた。 参加者:18 名
10 月 11 日 (火)	第 16 回 西武グループ 「東京ガーデンテラス紀尾井町」 見学会	「みどり」と歴史に抱かれた国際色豊かな複合市街地」を目指し、西武グループでは初めてとなる大型複合開発としてオープンした「東京ガーデンテラス紀尾井町」およびその上層階に位置する最上級のプリンスホテル「ザ・プリンスギャラリー 東京紀尾井町」を見学し、その後、各施設の広報戦略について担当者から説明いただいた。 参加者:32 名
平成 29 年 2 月 21 日 (火)	第 17 回 TBS放送センター 「TBS報道局の見学とレクチャー」	広報活動研究会としては初のメディア訪問。メディアの報道の仕組みを学ぶとともにメディアとの接点を深めた。TBSの報道についてのレクチャーの後、報道局を見学した。 参加者:24 名。

・広報ゼミ

広報ゼミは、企業内での広報部門の地位向上、またスキル向上を目指し、毎回共通テーマで議論するゼミナール形式の勉強会。平成 28 年度は 3 回開催した。各回とも終了後懇親会を開催し、参加メンバーでさらに議論を深めた。

開催日	テーマ	内 容
平成 28 年 8 月 25 日 (木)	第 23 回 特別企画「大学向け」 「模擬記者会見を体験してみよう ～「万一」が起きたときにどう 対処するか～」	事前アンケート調査の結果報告後、(株)電通パブリックリレーションズ 青木浩一氏を講師に迎え、謝罪会見をロールプレイング形式で実施。青木講師から「コミュニケーションに必要な 3 つのスキル (Visual, Verbal, Vocal)のうち、Visual が約 5 割を占める」「何をどこまでどのように発表するのか」など説明いただいた。 参加者:18 名
11 月 30 日 (水)	第 24 回 「NET 炎上 レクチャー & ワークショップ」	講師に国際大学 GLOCOM 研究員の山口真一氏を講師にお招きし、「統計分析が明らかにするネット炎上の実態と予防・対処方法」というテーマで話を伺った。その後、事前アンケート集計結果の報告、参加者を 4 つのグループにわけたワークショップを実施した。 参加者:19 名

平成 29 年 2 月 8 日 (水)	第 25 回 「企業文化×グローバルコミュニケーション」	事例紹介企業は、日本コカ・コーラ(株)、ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス(株)、キッコーマン(株)、YKK(株)の4社。第1部では、各社のコーポレートコミュニケーション活動について発表が行われ、その後、第2部では、4人の講師によるパネルディスカッションを実施した。 参加者:46名
---------------------------	---------------------------------	--

・PR業部会総会

PR業固有の課題について講演・報告・討議の3部構成で話し合うべく考えていたが、諸般の事情で平成28年度は取り止めた。

・若手の育成について

PR業部会全体の活性を図った。PR業各社にとってのグローバル化と、市場の拡大と質の向上の大事なポイントとして＜若手育成＞をテーマに掲げ若手育成の様々な形の実施プログラムを検討協議し、次年度へ継続する事とした。

・PRスキル研究会

広く要望テーマや持ち込み企画を募り、ニーズの高いタイムリーなテーマで内容の充実を図り参加者の拡大を目指した。また、一方的なセミナーだけではなく、活発な意見交換や検討の場となるような場づくりを図った。平成28年度は3回開催した。プログラムは以下のとおり。

開 催 日	講演テーマ	講 師
平成 28 年 6 月 23 日 (木)	第 37 回 「地方創生時代における自治体PRについて」	(株)オズマピーアール 営業開発部 地域ブランディングチーム 部長 名和佳夫氏 参加者:38名
11 月 30 日 (水)	第 38 回 「スパイクス・アジアから見えるこれからのPRのキーワード」	(株)オズマピーアール 副社長 遠藤 祐氏 (公社)日本パブリックリレーションズ協会 事務局長 渡邊 啓 参加者:32名
平成 39 年 3 月 14 日 (火)	第 39 回 「2016 年のPRとトレンド総括、2017 年のPRの展望」	(株)宣伝会議 「広報会議」編集長 森下郁恵氏 参加者:40名

・PR業実態調査

2年度ごとに実施している「PR業実態調査」を実施した。会員社157社、非会員社47社に調査票を発送し、76社から回答が寄せられた。調査結果は、ニュースリリース、協会Webサイトなどで発表し、直近の通常総会で報告する予定。

・PR経営者懇談会

PR業に携わる経営者が一堂に会し、PR業の抱える悩みや課題、さらには事業の可能性、将来性まで飲食を含め、2時間半、じっくり話し合う場として設定した。平成28年度は1回実施した。プログラムは以下のとおり。

開催日	講演テーマ	講師
平成29年 2月21日 (火)	「グローバルPRのパラダイムシフト 日米のPRを徹底比較」	(株)グローコム 代表取締役社長 岡本純子氏 参加者:24名

・他団体などの交流事業

・他団体などとの交流並びに協業/広報・PR関係（関連）業種との交流並びに研修

・カンヌ・スパイクスとの連携

PRSJの中期経営計画の柱の一つである「グローバル展開」の今後進め方について、主たる担当委員会として5カ年計画を策定。この一環として、PRを含むコミュニケーション関連のアジアにおける代表的なカンファレンスである「カンヌ・スパイクスとの連携」を組み込み、活動していくことに決定したことを受け、9月21日～23日にシンガポールで開催されたスパイクス・アジアに事務局長を派遣、視察を実施した。

・海外研修

当協会主催のニューヨーク研修旅行を2月6日（月）～8日（水）の2泊3日で実施した（現地集合／現地解散）。米国のPR関連団体であるPRSAとの交流会を皮切りに、「デジタルPR」と「コンテンツマーケティング」をテーマに、Allison + Partners（NYオフィス）、Ketchum本社、Weber Shandwick 本社のPR会社3社を訪問しプレゼンテーションを受けたほか、NHKニューヨーク総局、業界メディアであるPRWeek、米国の通信社APの3メディアならびにBusiness Wireを訪問。「米国における日本のPR」をテーマにジム・ハーフ氏（Global Communicator 社）による特別セミナーも開催した。参加者は13名。

・広報活動

・協会ニュース

平成28年度も毎月1回（8月度は除く）計11回会員にメールで配信した。また、Webサイトには広く一般の人々も閲覧できるように、会員限定掲載記事を除いたものを掲載した。会員が役立つ有効な情報を迅速に発信することを目的に、会員メリットを感じてくれるような内容にしていくよう努めた。より閲覧しやすい構造を目指し、継続的な改善を実現するために、スモールスタートで試行錯誤を繰り返しながら見直しを進めている。現時点では既存サイト内コンテンツへのリンク（各種イベント案内、活動報告詳細など）、理事メッセージ、関西の風、書評などを独自のコンテンツとして頁を新設している。

・Webサイト・ソーシャルメディア

会員に対する情報提供にとどまらず、公益法人として公益に資するためにコンテンツの充実や新たなサービスの提供など、広報活動の強化・改善を行った。また、アクセス状況を定点的に把握・分析しながら、協会広報の強化ならびに会員に対しては更なるメリットを創出できるコンテンツやサービス開発に注力し、非会員に対しては協会の認知度を高めるように検討を続けた。さらに運用を円滑化するため他の委員会、部会、特にPRプランナー部会と合同でSNSを利用した発信力の強化に向けて試行を重ねている。

・メディアリレーションズ

発信物の整理、リレーションの強化を踏まえて、統合型のメディアリレーションを目指すべく検討を重ねている。現時点では「協会ニュース」と協会Webサイトとのリレーションを深められるよう試行錯誤を重ねている。また、広報・PRの専門誌である「広報会議」は定期的に協会から発信できる唯一のメディアであるので、日本PR協会としての発信の場として、各委員会、部会のご協力のもと協会内のコンテンツを丁寧に拾い上げている。

配信日	ニュースリリース
平成 28 年 4 月 15 日	PRSJ 認定PRプランナー取得者が累計 2,000 名を突破 2,016 名の認定PRプランナーが誕生 ～2,000 人目のPRプランナーは吉村智恵子さん(資生堂広報部勤務)～
9 月 1 日	2016 年度「PRアワードグランプリ」 審査体制を一新して9 月 1 日からエントリー募集開始～審査委員長に博報堂ケトル 嶋氏～
11 月 17 日	広報・PRパーソン必携『広報・マスコミハンドブック(PR手帳)2017 年版』を刊行
12 月 8 日	2016年度「PRアワードグランプリ」が決定 「スマートフォンでの領収書電子化と原本の長期間保存義務撤廃を実現する規制緩和PRプログラム」(株井之上パブリックリレーションズ)が『グランプリ』を受賞 『ゴールド』4 作品、『シルバー』4 作品も決定
12 月 15 日	「日本PR大賞パーソン・オブ・ザ・イヤー」に小池百合子氏(東京都知事) 「日本PR大賞シチズン・オブ・ザ・イヤー」にくまモン(熊本県マスコットキャラクター) -2016年度日本PR大賞が決定-

また、メディアなどから取材を受けた情報、掲載された情報は以下のとおり。

掲載日	媒体名	内 容
平成 28 年 4 月 1 日 (金)	「月刊広報会議」 5 月号	当協会連載コラムに2月15日にリスク対応をテーマに開催された「第5回PRプランナーフォーラム」を紹介。
4 月 8 日 (金)	「月刊総務」 5 月号	「総務のNEWS」で、当協会が編纂した『広報の仕掛け人たち PRのプロフェッショナルはどう動いたか』の概要が掲載。
5 月 1 日 (日)	「月刊広報会議」 6 月号	当協会連載コラムに、「第22回広報ゼミ」BtoB広報をテーマとした勉強会に関する内容を紹介。
6 月 1 日 (水)	「月刊広報会議」 7 月号	当協会連載コラムに、PRSJ 認定PRプランナー資格保持者 2,000 名の突破についての内容を紹介。
6 月 7 日 (火)	「月刊プレジデント ウーマン」 7 月号	特集「デキる広報に学ぶ “仕事の基礎力”」において、「リーズナブルに広報力と人脈を得る」との見出しで当協会が紹介。
7 月 1 日 (水)	「月刊広報会議」 8 月号	当協会連載コラムに新綱領、パブリックリレーションズの定義などが紹介。
8 月 1 日 (月)	「月刊広報会議」 9 月号	当協会連載コラムにフランス・カンヌで開催された今年度の「カンヌライオンズ 国際クリエイティビティ・フェスティバル」に参加した日本人関係者に関する報告を紹介。
9 月 1 日 (木)	「月刊広報会議」 10 月号	「2016 年度PRアワードグランプリ」エントリー作品の募集開始を紹介。今年度から大きく変わった「PRアワードグランプリ」の審査基準、「インターナル・コミュニケーション部門」の追加により5部門に拡充された募集の概要、エントリーシートの改訂や審査スケジュールなどが紹介。
9 月 8 日 (木)	「CM 通信(東京)」 9 月 8 日号	「2016 年度PRアワードグランプリ」エントリー作品の募集が開始されたこと、今年度から刷新されたアワードについて詳しく掲載。

10月1日 (土)	「月刊広報会議」 11月号	当協会連載コラムに、2016年度「PRアワードグランプリ」について、今年度から大きく変わった審査・表彰の枠組み、新たな審査体制が委員の氏名とともに紹介。
11月1日 (木)	「月刊広報会議」 12月号	当協会連載コラムに、「広報マスコミハンドブック(PR手帳)2017年版」の刊行について紹介。
11月17日 (木)	『AdverTimes (アドタイ)』	優れた広報・PR 活動の事例を広く募集する当協会の「PRアワードグランプリ」の2016年度グランプリ候補9点が決まったことが紹介。
12月1日 (木)	「月刊広報会議」 1月号	当協会連載コラムに、昨年夏のPRプランナー資格を受験し合格した資格取得者の体験と、キャリアアップへの活かし方に関する取材記事を紹介。
12月15日 (木)	「CM 通信(東京)」	「PRアワードグランプリ」の2016 年度グランプリならびにゴールド、シルバー、ブロンズの計19 作品が選出されたことについて掲載。
平成 28 年 1月1日 (木)	「月刊広報会議」 2月号	当協会連載コラムに、「第4 回PRSJ 特別シンポジウム」の開催について紹介。概要やテーマ内容をはじめとして、日経BP社の麓幸子執行役員が行った基調講演、さらに麓氏をモデレーターとして進められたパネルディスカッションの内容が紹介。
1月1日 (木)	「月刊広報会議」 2月号	「INFORMATION」に、「2016年度PRアワードグランプリ」の応募状況、嶋浩一郎審査委員長のコメント、さらにグランプリおよびゴールド受賞4作品について紹介。
2月1日 (水)	「月刊広報会議」 3月号	当協会掲載コラムに、「2015年度PRアワードグランプリ」および受賞作品について紹介。
2月1日 (月)	「月刊広報会議」 3月号	「INFORMATION」に、「2016 年度日本PR大賞」が紹介。「2016 年度日本PR大賞」の「パーソン・オブ・ザ・イヤー」に小池百合子 東京都知事が、「シチズン・オブ・ザ・イヤー」には熊本県のマスコットキャラクターである「くまモン」が選出され、それぞれについてなぜ今回選ばれたのか、評価のポイントが紹介。
3月1日 (水)	「月刊広報会議」 4月号	当協会連載コラムに、イラン・イスラム共和国大使館を訪問し、講演などを通してイラン文化や、日本との歴史的な関わりを確認すると同時に交流を深めたことを紹介。

・災害広報基準の策定

災害広報基準の策定は公益社団法人として意義深いテーマとして広報委員会内で議論を重ねてきたが、広報委員会単独ではなく協会全体で取り組む課題として理事会、経営企画会議での協議に移行し、広報委員会としての扱いは中断した。

・PRプランナーのメリット創出

PRプランナー資格取得メリットの創出と認知拡大を図ることで、資格取得、更新者の拡大を図るべく、課題の把握と既存メリットの整理、各委員会と連携した検討を行った。更新時研修制度創設については、PRプランナー部会による検討では、制度変更による影響など把握しきれない面もあることなどから、協会としての会員制度、資格制度見直し時の検討に委ねることとした。既存セミナーのWeb化については、既存セミナーへのPRプランナー参加率が高くないことから、ニーズ調査の必要があることが分かった。PRプランナー取得検討対象者向けの取得メリット情報発信拡充については、広報委員会で作成検討中のSNSガイドラインを待って検討することとした。

新たな取り組みとして、広報業務おける悩みを解決するコンテンツへのニーズが高いことから、「PRプランナーワールドカフェ」を実施した。プログラムは以下のとおり。

開催日	内容	講師
平成 28 年 12 月 13 日 (火)	第 1 回 「PRにイノベーションを起こそう！～既成概念に 捉われない広報担当とは～」	パネラー (株)PRTable 社外取締役 日比谷尚武氏 (株)井之上パブリックリレーションズ アカウントサービス 2 部 部長 高野祐樹氏 参加者:24 名

・PRプランナー認知度向上に向けたPR活動

PRプランナーとしての経験に基づき、PRプランナーのプロフェッショナル性ならびに社会的価値の認知向上につなげる検討を行った。PRプランナーに関する認知、理解度に関する調査については、アンケートの方向性検討、設問作成を実施。調査の本実施については、平成29年度実施の予定。PRプランナー取得対象者層およびビジネスパーソンを中心とした広く一般における認知向上については、協会ホームページの「Voice of PR Planner」にて、平成28年5月から、コラム寄稿を実施。PRプランナーのプロフェッショナル性や社会的価値の認知向上に取り組んだ。

・PRプランナー向け活動の認知向上と情報交流のためのソーシャルメディア活用

PRプランナー部会主催の各種活動を、協会Facebookなどを通じ発信、PRプランナーをはじめ広く一般との双方向コミュニケーション活動を行うことを目標に、その運用方法を検討した。幹事会メンバー同士の双方向コミュニケーションの拡充に向けては、試験運用的に幹事会メンバーのみのFacebookグループを作成し、幹事会メンバー同士の意思疎通、情報共有を図った。PRプランナーの双方向コミュニケーションの拡充に向けては、協会Facebookを通じたPRプランナーのグループ化に向けた課題の整理検討を行った。PRプランナーに特化した情報発信や相互交流については引き続き検討することとした。一般向け双方向コミュニケーションの拡充に向けたSNS運用ルールの整備については、まず部会としてSNS活用の目的をあらためて整理・確認し、暫定的な運用ルールと役割分担を策定した。協会としての情報発信に関する規定を定めた広報委員会との意見交換などを通じ、恒久的な情報発信に関するルールや運営方法などを検討した。